

1 大学の役割

グループ内で討議した結果、次の2点を大学の役割として考えた。

- 1) 人格形成の場
- 2) 高等教育機関、研究機関



社会のニーズに合わせた教育ではなく、自立した人間となれる人格形成が必要

2 大学の現状

大学の役割を考えた上で大学の現状について討議した結果、以下のとおりとなった。

- 1) 卒業のための単位取得
 - 「大学卒業」という肩書きのために入学し、そのために単位を取得している。4年間の学びが就職につながっていない。学生がなぜ学んでいるのかを理解できていない。
- 2) 良い企業に就職するための学び
 - 大学側が就職率にこだわり、就職支援がメインの教育になっている。良い企業に就職するために4年間かけて就職活動をしているような大学生活。
- 3) 就職に活かすための資格取得推奨
 - 大学は資格取得を推奨しているが、就職に活かす、就活で有利になることが目的になっている。学生の自立や人格形成につながっていない。

3 テーマ選定理由

大学の現状を討議した結果、大学は資格取得や就職率など、ゴールを意識し過ぎた教育になっていることに気がついた。しかし、討議開始時に確認した大学の役割を考えると、人にどう見えるかではなく、個人がどれだけ成長したかが重要であるという結論に達した。そこで本グループは「あらゆる社会に対応できる人格形成」をテーマに選定することとした。

4 問題点の深堀

テーマをもとに、現状からの問題点について討議した結果、次の3点にしぼられた。

- 1) 知識の提供重視の教育
- 2) 一方通行での授業
- 3) 多くの授業でフィードバックがない



大学は学生に対して一方的に授業を展開し、知識を提供することだけに重点をおいている。さらには学生に対してフィードバックするという意識が薄く、このような教育をしては、「あらゆる社会に対応できる人格形成」はできない。

5 解決策の検討

問題点の深堀から明確となった社会に通用する人格形成を行うための教育がされていない現状の大学が、真の人格形成の場となるための解決策を検討した結果、「大学本位の教育から「学生本位の教育」への転換が重要であると考えた。



6 大学のイノベーションの提案

解決策として挙げた「学生本位の教育」へ転換していくために、大学は何をすべきかを検討した結果、**教職員の意識改革**が必要であるという結論となった。

では、教職員の意識改革を実現させるために、どのようなアプローチが必要なのかを討議し、次の具体的提案とした。

- 1) 教職員が3ポリシーを理解した上で教育を行う
 - 全教職員が大学教育の柱となる3つのポリシーの意義と重要性を知るために研修会を学内にて実施した上で、ポリシーの策定に全教職員が関わる。さらに、そのポリシーを理解した上で教育につなげる。
- 2) 地域社会の有識者（住職やNPOの職員など様々な職業、地位の方）にも力を借り、学生・教職員がともに教養を深める
 - 地域社会の有識者を講師に招き、「教養講座」や「リベラルアーツ科目」等を開設し、学生だけでなく教職員も講義を受けて教養を深める。また、海外や遠方に在住されている講師の場合には遠隔講義を行い、様々な分野の方に講義をしてもらうこととする。
- 3) 学生へのフィードバックを促し、「双方向の学び」を実践する
 - 小学生の頃に宿題を提出すると、先生からはなまるがつけられて返され、それがとても嬉しかった記憶は誰にでもあるのではないだろうか。大学も与える教育から双方向の学びへ変化していかなければならないため、その一歩としてポータルサイトを活用したフィードバックの徹底を行う。

7 まとめ

大学の役割を討議していくと、現状からの課題は数多くあげられた。その課題を解決する方法として、大学が提供する学びそのものの改善に視点を合わせる傾向にあるが、本グループは、そこからさらに大学の学びを改善するためにはどのようにすべきかを追求し、その原点は教職員の意識改革だという結論に達した。大学の本来の役割を改めて考え、卒業までの4年間で学生を成長させるためにはどんな学びが必要であるのか、教職員が自ら検討し、学びを改善させる意識が最も大切であると考えた。

以上